



今しか見られない工事の様子に興奮！親子でご参加の熊谷颯恭(そうすけ)くん(小3)はデジカメで激写していました

平成27年(2015)からNEXCO西日本(西日本高速道路(株))が吉野川河口に整備していた「吉野川サンライズ大橋」が完成し、令和4年3月21日、徳島の南北をつなぐ徳島南部自動車道(徳島JCT・徳島沖洲IC)が開通しました。吉野川サンライズ大橋は全長1696・5m。コンクリート道路橋としては国内最長級です。

令和3年8月25日、この橋の工事現場を、クルーズ船に乗って川の上から見学しようと講座を開催。小学生から大人まで11人が参加しました。現場資料館で工事概要や工法を学んだ後、NPO法人新町川を守る会のボートで現場へ出航！強い風と波を切って進むと、一直線にのびた橋が見えてきて、参加者から大きな歓声が上がりました。

現地
見学会

現場から見る吉野川

「工事現場見学会・吉野川サンライズ大橋」

2021
8/25



ボートの上で、NEXCO西日本のスタッフに工事についてお話をうかがいました。吉野川最下流の工事は、波や風の影響もあり、たいへんだったとか

吉野川サンライズ大橋は、河口に飛来する渡り鳥、干潟や河床の生物などの環境に配慮し、主塔やケーブルのない桁橋にするのと同時に、支間長を広く(最大130m)して橋脚の数を極力少なくした「PC15径間連続箱桁橋」という橋梁形式で建設されています。

最新技術の粋を集めた橋は、想像よりずっと長く、大きく、美しく、感動を覚えるほどでした。水平線からのぼる朝日を望む吉野川サンライズ大橋は、吉野川の新たな名物になりそうです。まだまだお伝えしたい情報はあるのですが、続きは41号で！お楽しみに。



ジオラマや模型で橋の工法を学習

広島県三次市立塩町中学校2年生の皆さんが修学旅行で徳島へ。吉野川の自然について学びたいという皆さんを、徳島県立博物館へご案内しました。

三次市は広島県北部に位置し、鵜飼で有名な一級河川・江の川が流れています。学芸員の山田量崇さんから「吉野川の延長は194km」と聞いて「江の川と同じだ！」と顔を見合わせます。

吉野川の特徴のひとつが河口の広さ。塩町中の皆さんも移動中に吉野川河口を見て、その広大さに驚いたそうです。河口の川幅はなんと全国2位。広大な河口、特に干潟には絶滅危惧種のシオマネキやリュウスイハンミョウなどの貴重な生物がたくさん生息しています。流域にすむ鳥、魚、昆虫、植物などの標本で豊かな生態系についても学習しました。

「吉野川の流れが途中で直角に曲がっているのは地形の変動の影響だとわかった」と大前輝河さん。生き物が好きで近所の川によく行くという林葵輝さんは「徳島は暖かいので広島とは魚や昆虫の種類が違う。昆虫、特にチョウの種類が多い」と標本を熱心に見学していました。

吉野川についてすっかり学習した皆さん、今度は吉野川に遊びに来てくださいね。



コミュニケーションゾーンの赤色立体地図で地形の特色について学習



令和3年8月にリニューアルした博物館。化石や標本、映像資料が豊富で見応えがあります



「地球と生命の歴史」コーナーには巨大なティラノサウルスも



学芸員の山田さんの説明に、熱心にメモをとる皆さん。2クラス58人が常設展を見学しました

講座

吉野川流域の自然について学習

「修学旅行生を対象に・徳島県立博物館」

2021
12/8